

いま生活者によって大きく変化しつつある高齢社会をとらえ、従来の高齢者・シニアという先入観や固定概念に縛られずに考えるために、本書では、「シニア」という言葉をできるだけ使わず、「エルダー」ないし「**50+世代**」（40代以上の場合は「**40+世代**」）そして「新しい大人／新大人」という言葉を使っていきたい。

2014年の人口統計をみると、日本の総人口は1億2713万人で、そのうち、成人人口すなわち20歳以上人口は1億481万人と約1億人である。50代以上人口は約5700万人。つまり、すでに「**大人の2人に1人は50歳以上**」である。

クロスジェネレーション 世代間交流・世代間協力

金もち、時もち、**金時（きんとき）もち**、貧乏ひまなし

また、いくら退職金が入ったから

といえ収入が減った途端に湯水のようにおカネを使い始める人は誰もいない。普通リタイア後の1～2年は様子見をする。リタイア後1～2年消費意欲が一時的に低下することは、一般的に起こりがちなこととしてあらかじめ織り込んでおく必要もある。要は使う費目や使い方が変わっていくのである。そもそも様子見の期間でもリーズナブルプライスのためにあまりセーブする必要のないのが、**電車で行く美術館や博物館・シネコン**であり、リタイア世代であふれている。一方で、様子見の期間が過ぎて目の前に現れてここぞとばかりにおカネが動いたのが、**JR九州のななつ星**であり、**ポールマッカートニー日本公演のアリーナ席**だったといえる。

すでにビジネスの面では老健施設が介護予防に目を向けている。「**メディカルフィットネス**」である。要介護者が減ればビジネスが縮小するという危機感があるのかもしれない。そこに先手を打つように、フィットネスクラブなどを買収し、介護予防事業に取り組み始めている。

100歳以上の人たちをセンテナリアンという。（centenarian）

NISAは60代以上が支えている。

コミュニケーションの活発な人はハツラツとした人生をおくることができる、とよく言われる。

DeNA 趣味人(しゅみーと)倶楽部

<https://smcb.jp/>

シニアについて一般的によく語られていることには、大きく悲観的な見方と超楽観的な見方の2パターンがある。悲観的な見方の代表は、「年金暮らしの高齢世帯」であり、「介護」である。そこに「独居老人」と「介護離職」の問題が重なる。もちろんこれらは大きな解決すべき社会課題である。本書のなかでも解決策をできるだけ提示していきたいと思う。ただし、だからといってそれで50代以上の生活者の全てを規定してしまうのは少々無理がある。また、「介護」は今後も確かに大きなビジネス機会ではあると思うが、それだけしかないと考えるのもおかしい。

一方の超楽観的な見方はどうか。「アクティブシニア」というのが代表である。その言葉しかないで、やむを得ない面もあるが、使用にあたっては注意を要する。

男性も定年が近づくにつれ「ひとりの男性」になる。今まではサラリーマンと父親だったが、自分の趣味を探すようになる。男性の場合は「趣味誌」が50代以上男性誌の定番である。『サライ』『一個人』『Pen』などである。グルメ誌としての『大人の週末』や『danCyu』などもそうだ。男性ファッション誌としては『LEON』や『MADURO』などである。

この仲間パワーをビジネスとしてとらえたのが、「クラブツーリズム」だ。「温泉」「日本百名山」など仲間旅を提案し、増収増益を続けている。

これはエコノミストの吉本佳生氏が明らかにした「L70市場」である。L70とは「Lady70」、つまり70代女性のこと。70代女性の学歴が徐々に上がっていくとともに、知的好奇心の旺盛な生活者が増え、それに伴い消費が活発化していく。吉本氏はこのことを多くのデータを駆使して実証している。とくに、旅行、エンタテインメント、食といった領域で著しい。知的好奇心があるからこそ、旅行もエンタテインメントも食も楽しくなる。もっと知りたいという欲求が消費を生んでいく。詳しくは『L70を狙え！ 70歳以上の女性が消費の主役になる』（吉本佳生、日本経新聞出版社）をご覧ください。

しかし、「投資」というのはいわば「おカネ自身に働いてもらう」ことで、「新たなおカネ」が入ってくる。実際、60代で「外貨やFX、REITで儲けちゃったんだけど何に使おうか」という話をよく聞く。50・60代男性の日常会話は健康話が多いのだが、それと同じぐらい「いま儲かる金融商品」話も多く、口コミで広がっている。

中高年男性の関心の一つである「そば打ち」も典型例だ。そば粉の産地や打ち方、麵棒・まな板・包丁、前垂れなどなどのウンチクが楽しく、そばの奥深さを学び、実践もできるところが、男心をとらえる。中高年リターンライダーのバイクも、**デジイチ**と呼ばれるデジタル高級一眼レフカメラも、排気量やレンズのウンチク、ハーレーやニコン・キヤノン・ライカなどのブランドにまつわる情報が楽しいのである。全国の路線に乗る「乗り鉄」も、列車の写真を撮る「撮り鉄」も、情報交換が楽しく、ウンチクを開いてくれる仲間が楽しい。趣味仲間同士で語れば、時間が経つのを忘れる。定番人気と言ってもいい世界遺産も、それにまつわるウンチクがたくさんあるところが、人気の秘密のひとつだ。富士山も、浅間神社を語るのが楽しく、自慢でもある。

クラブツーリズムは旅行会社でありながら「学び」を重視し、「旅の文化カレッジ」というカルチャースクールを運営している。絵画・ダンスや音楽など多様な講座がある。スケッチ・絵画・デジカメ・語学などは、旅行との相乗効果が得られる。クラブツーリズムの業績は好調で増収・増益を続けている。

現在の50・60代女性が関心を示すのは、カーブスに代表されるフィットネスであり、ヨガ教室だ。カーブスは「**ノーメイク・ノーメン・ノーミラー**」の**3M**、つまり、買い物帰りにノーメイクで寄れてオトコ視線がなく、しかも鏡がないフィットネスである。40～60代女性の気持ちをグッとつかみ、大ヒット中である。

社会的にもまず現時点で対応すべきことは「徘徊」だろう。**徘徊症状がある人は毎日どこかへ出かけて行ってしまう**。道に迷っても自分がどこの誰か人に告げることができないから厄介だ。すでに様々なところで対応策が始まっているが、社会全体でこうした**徘徊高齢者が街にいるという前提を持つ**ことが必要だろう。つまり、少し普通とは違う動きをする高齢者が歩いているかもしれないということを、誰しもが前提としておくのである。

よく出てくる話が「夫婦別寝室」である。これは妻から話が切り出される。夫は面食らってしまい、「なんだ離婚か」とつい深読みをする。実はそうした深刻な問題ではなく、「夫のイビキがうるさい」からなのである。多少の緩和策として全くの別寝室ではなく、「**半別寝**（べっしん）」というベッドをT字型にした提案もされている。